

# 令和8年度 第3回登別市地域公共交通活性化協議会 議事録 要旨

## 開催概要

日 時 令和8年9月8日（火） 10:00～

場 所 登別市役所 2階 議場

出席者 別紙のとおり

## 議事内容

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

### 3 会議の成立報告

- ・ 本日の協議会委員出席者数は14名
- ・ 委員の過半数が出席しており、登別市地域公共交通活性化協議会規約第4条第4項の規定に基づき、会議が成立していることを渡部会長が報告

### 4 議事録署名委員の指名

- ・ 渡部会長が田中委員と松田委員の2名を議事録署名委員に指名

### 5 議事

#### （1）「乗合タクシー実証実験の実績報告」について

【説明者】事務局

- ・ 別紙資料に基づき内容を説明

【委員からの主な質疑等】

#### ■ A 委員

Q 1. 実証実験の運行エリアとなった町内会の方から実証実験について聞いたところ、今後の運行を期待したいという声があった。登別本町会・登別本町2町会・登別東団地町内会などは高齢化率が高く、一人暮らしの方が多く、買い物や通院、金融機関などの外出が大変な方々が多い状況である。また、この実証実験を踏まえて、この地域が将来的にどのような地域であるべきか考える時期に来ていると聞いている。

そのため、この実証実験については高齢化が進む中、移動手段の確保としての需要の増加が考えられることから、登別地域の実証実験を市としてのモデル事業として進め、他地域にある公共交通空白地域への対応も、登別地域をベースに進めてほしい。

また、今後、利用者を増やしていくために、地域の町内会の会長等に相談しながらきめ細かな周知活動を進めてほしい。本実証実験に関わった方々には感謝したい。

A 1. 地域の方々からの声を聞いており、今後、実証実験の内容をブラッシュアップするなど、本協議会に諮りながら検討していきたい。

#### ■ B 委員

Q 2. 利用実績について、概ね増加傾向にあり、実証実験が浸透していくことで増加につながっているものと捉えているが、日にちによっては多少の増減があるように見える。利用ニーズの傾向として天候が影響していることがあるのか確認したい。

A 2. 実証実験の実施にあたっては事務局も同乗していたが、期間中は天候に恵まれたこともあり、天候での利用ニーズの増減は確認できなかった。ただ、利用していただいた方の中には、後半になるにつれ、同じ方が毎回、火曜日・木曜日に合わせておでかけするケースがあったため、今後、継続して実施する場合には、複数回利用される方が増えてくるのではないかと考える。

#### ■ C 委員

Q 3. 資料にあるバス停からの距離に応じた乗降スポットの利用実績について、平均利用率を示しているが、あまり意味のない分析ではないかと思う。平均利用率ではなく、各圏域ごとに利用率を合算した割合で示した方がいい。平均では、利用実績が高いポイントの数値が大きく影響するため、最終的な報告では見直しが必要であると考える。

A 3. 見直しを検討する。

#### ■ D 委員

Q 4. 電話予約とLINE予約では電話予約が多い結果となっている。電話予約ではAI技術が進歩しているが、利用者の年齢層を踏まえるとAI技術やLINE予約の対応は難しいか。

A 4. 利用した8割以上が70代、80代であった。LINE予約を利用してもらいたかったため、実施にあたり開催した説明会では、LINE予約の方法を丁寧に説明したが、高齢者の方にとっては電話予約が利用しやすい結果となっている。

ただ、LINE予約は少なかったものの、実績では午前での利用が比較的多い結果となっている。これは、電話予約が午前8時からの受付であり、早い時間で利用したい場合には前日までの電話予約か、LINE予約に限られる状況であった。このことから、当日の早い時間の予約をLINEでやってみたという方がおり、それが結果として出ているものと考え。そのため、今後の展望としては、電話予約に関しても対人によるオペレーターでの対応ではなく、AIによる対応で実施することも検討してみたい。

#### 【審議結果】

・承認

## (2)「地域公共交通計画改定に向けた進捗状況」について

【説明者】事務局

- ・別紙資料に基づき内容を説明

【委員からの主な質疑等】

### ■ C 委員

Q 1. 外国人アンケートの結果概要について、2週間という短期間でありながら2,443票の回収という結果はいいと思う。登別温泉側では約1,900票であり、着地地点であるためレンタカーが多く、登別駅側では約540票で鉄道との組み合わせが多い結果であるが、当然の結果ではないかと考える。

ただ、多くの回収数が得られるため、今回は計画改訂の一環の取組であるが、随時、このような調査を実施することで、インバウンドに対する様々な動向がわかるのではないかと考えることから、次年度以降も継続して実施することでもいいのではないと思う。また、シールに番号を付すことで設問間の連携が図られるため、有効な手段である。

次に、人流データ分析について、様々なデータがあると思うが、今回はどのようなデータを活用しているのか。

A 1. 外国人アンケートについては、当初の想定を上回る回答となった。今後、何等かの形で継続して実施ができるのかも含めて検討する。

人流データについては、KDDIのKLAというデータを活用している。

Q 2. 人流データ分析に用いた基データについて、計画改訂後は登別市で活用することが可能であるか。

A 2. 図表やグラフは登別市に納品される。人流データそのものを登別市で操作することはKDDIと委託事業者での契約であるため難しい。ただ、図表で示しているものの具体的な数値がわるデータも併せて納品される。

Q 3. 登別市内の分析に留めるのではなく、室蘭市や伊達市なども含めた分析を考えているのか。

A 3. 本日示した資料は一部であり、現在、室蘭圏を含めた分析を進めている。登別市における生活圏として、室蘭市等は重要になるため、広域的な分析を進める。

Q 4. 交通事業者ヒアリングの結果でも「室蘭市を商業圏としている方が多いため、室蘭市との連携策が必要ではないか」という意見があったため、広域的な分析をすることで全体の人流が見えてくることから、分析を進めてほしい。

A 4. 承知した。

■ E 委員

Q 5. 交通事故者ヒアリングの結果から担い手不足が深刻化している。第 2 種運転免許の資格を取得しようとしている又は取得している年代別の割合を調べると、20 代が 0. 2 % という結果だった。

これは、事業者での運転手の取り合いを起す原因にもなり、結果として公共交通が細くなってしまうことから、計画改訂では運転手確保に向けた取組を施策に加えてほしい。

もう一つ、高校生をターゲットに運転手の担い手になってもらうための取組を進めている中で、課題としてはキャリアパスがよくわからないなど、運送事業に対する悪いイメージがある。そのためイメージを払拭することが第一と考えたとき、ハードルが高いと感じている。ただ、こういったイメージは普段から見えていないため、交通事業者がどのような仕事をしているのか、どのような生活を送っているのかなど、知ってもらえる機会をつくる必要がある。これは、運転手確保や公共交通の利用促進にも繋がると考えるため、計画改訂にあたってはこのような施策も加えてほしい。

A 5. 担い手不足について、資料に記載はないが、今年度は市が登別青嶺高等学校と連携して取り組む「じもと学」の 1 コマで「公共交通」をテーマに授業を行った。その中では、普段の通学で道南バスを利用している学生がバスキタの存在を知らないなどの現状を把握することができた。こういった取組を通じて、今後、どのような施策を加えていくかなど検討していきたい。

【審議結果】

・ 承認

(3) 「令和 8 年度「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクトを活用した登別温泉公共ライドシェア実証事業」について

【説明者】 一般社団法人登別国際観光コンベンション協会

・ 別紙資料に基づき内容を説明

【委員からの主な質疑等】

■ E 委員

Q 1. 登別駅と登別温泉、登別駅とカルルス温泉での区間という説明だったが、途中区間での乗降はなしという理解でいいか。通常のタクシーが配車されなかった場合に公共ライドシェアが配車されるという説明だったが、GO アプリでこの仕組みが可能であるのか。スケジュールとして、有償運送登録の前には運転手講習の受講が終わっていないなければならないが、同時並行ということか。

A 1. 区間については、昨年度の実証実験を実施した結果、登別駅と登別温泉、登別駅とカルルス温泉という利用が多かったため、このような示し方としているが、資料で示しているエリア内を運行するため、この区間に限定しているものではない。

配車の仕組みについては、GOアプリは近くにいるタクシー順に配車依頼されるため、配車がとれなかったときは次の近くにいるタクシーへと順々に依頼が回っていく。最終的にどこもとれなかった時には公共ライドシェアの車両に配車依頼が来る。

スケジュールについては、同時並行となる。

Q 2. 想定される運行が登別駅と登別温泉、登別駅とカルルス温泉であり、公共ライドシェアを運行する時間が夜間であることを考慮すれば途中での乗降は想定していないということで理解した。また、配車の仕組みは、タクシー事業者に優先されるというよりは配車依頼をとれるかとれないかということで理解した。

登別駅前に待機しているタクシーとGOアプリでの予約タクシーをどのように整理するのか。事前予約は可能であるのか。

A 2. 事前予約は可能である。タクシー事業者の全ての車両にGOアプリが搭載されているわけではないため、GOアプリを利用する方はGOアプリを搭載した車両が配車に向かい、GOアプリを利用しない方は待機しているタクシーを利用することとなる。

Q 3. 今、質問した内容等は各事業者でも疑問点として出るため、運転手まで伝わるように丁寧な対応をお願いしたい。

A 3. 承知した。

#### 【審議結果】

- ・承認

## 6 その他

### ■事務局

市の関係部署より委員の皆さまに情報提供事項があるため、担当部署より説明する。

#### (1)「登別市鬼まち MaaS×まちづくり推進事業」について

【説明者】登別市総務部企画調整G

- ・別紙資料に基づき内容を説明

#### 【委員からの主な質疑等】

### ■C委員

Q 1. 予算規模はどのくらいの事業であるか。

A 1. 予算は4, 0 3 2千円を計上している。財源として、北海道地域づくり総合交付金を活用したいと考えている。

Q 2. タクシークーポン等の財源は北海道の交付金であり、商業施設側の負担は発生しないという理解でいいか。

A 2. 今年度は、実証実験のため全て公費で実施する。

Q 3. 検証にあたっては、成果指標が必要と考えるが、どのような成果指標を考えているのか。

A 3. 中央地区の賑わい創出や地域の活性化を目指して事業展開していきたいと考えている。そのため、明確な数値ではないが、考え方として経済効果や本サービスの利用件数などがあげられる。また、本サービスをどの地域のどの年代の方が利用されるのかなどの分析も実施する予定である。

Q 4. 地域の活性化が目的となる事業であるため、買い物金額がどの程度あったのか、商業施設等での滞在時間が伸びたか、街中に行く頻度が増えたかなど、フォローアップできればいいのではないかと考える。

A 4. 承知した。

## **(2) 乗合バスキャッシュレス決済導入に向けた支援について**

【説明者】事務局

・口頭による説明

【委員からの主な質疑等】

・質疑等なし

## **7 閉会**